



木村 雄治氏

ポラリス・キャピタル・グループ
代表取締役社長
日本プライベート・エクイティ協会 前会長
京都大学経営管理大学院 客員教授

投資先企業を「しからみ」から解き放ち、その非連続的成長をサポートする。これがポラリスのコンセプトで「起業家精神の回帰」と「ビジネスモデルの刷新」が方策だ。ESGの推進は「自社」「投資先」「教育面」の3

方向からアプローチする。自社の取り組みとしては、18年のESGポリシー制定、21年の社外取締役への女性の登用、22年のチーフ・サステイナビリティ・オフィサーの設置と、同ポストへの女性の着任などが挙げられる。

投資先間で施策を共有

投資先での取り組みは、ダイバーシティ活動の推進や、GHG（温暖化ガス）排出量測定の実施などがある。

前者では、投資先の11企業よりダイバーシティ推進責任者を集め、情報交換やディスカッションを実施。施策の水平展開と共有を目指す。後者では、GHG排出量算定・可視化クラウドサービス事業者との包括的契約を通じて、全投資先でのGHG排出量削減等を行う。教育面では、京都大学の寄附講座にてESG投資を取り上げている。PEファンドがESG

に取り組む意義については、PE協会前会長として3点挙げたい。1点目は投資先、とりわけESGマインドが比較的薄い小規模事業者にESGを浸透させ、同時に投資家にも浸透させること。2点目は、ESGマインドの高い海外投資家のリスクマネーを国内に呼び込むこと。3点目は、投資によって社会課題解決に資する企業の成長を促し、ESG推進と投資リターンを両立させることだ。これらは投資先企業の経営に深く関わるPEファンドだからこそ可能である。